

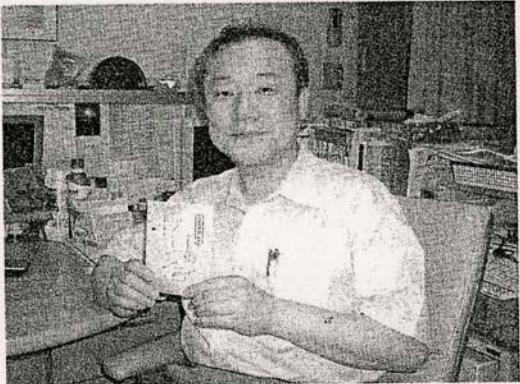
07年8月3日(金) しんぶん赤旗

ひと

いけ川
がわ

医療費の窓口負担「ゼロの会」の責任者を務める

あきら
明さん



横浜市在住。家族は妻と歯科大生の娘。太極拳三段が目標。52歳

診察室で、色鮮やかなグリーンの「ゼロの会」リーフレットを常備。患者さんに伝えることから始めています。

開業医団体・神奈川県保険医協会が「重過ぎる患者負担の解消は緊急の課題だ」と、「ゼロの会」を発足させたのは一ヶ月。以来、医療運動担当の副理事長として記者会見や講演会講師と多忙な日々です。賛同者は現在約三千人。映画監督

原文・写真 宮沢 毅

「ゼロの会」の出発点は「安全でいい医療をしたい」という発想です。三浦半島に近い横浜市金沢区で産婦人科を開業して十七年。取り上げた赤ちゃんは千六百人近くになります。「命の誕生にかかわる」と強い愛着がある仕事。それだけに政府の医療費抑制政策による「産科崩壊」への強い危機感があります。

いい医療をするためには医療費を増やさないといけない。でも窓口負担三割では、医療費増は患者に跳ね返る。「これを解決するのが窓口負担ゼロなんです。すぐに実現できる課題とは思いませんが、気負わず、腰をすえてやつていきたいですね」。趣味の太極拳のように、あくまで「自然体」です。

「自然体」です。

「欧洲諸国では窓口負担は原則ゼロ。日本も二十五年前ま

でサラリーマン本人はゼロでした。だって高い保険料を払っているでしょ」